

社会福祉学科 2年前期 総合科目

1. 生と死の倫理学
2. キャリアデザイン論
3. 臨床美術の実践 I

社会福祉学科

科目名: 生と死の倫理学				担当教員 氏名: 境 美代子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	総合科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 看護職としての経験を活かして、「生と死」について人としての理解を深められるように教授する									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
この授業では、人間の生と死をめぐる多様な倫理問題に関する近年の動向を検討しながら、複雑な現代社会で「善く生きる」(納得のいく人生を歩む)ための心がまえを学習します。とりわけ、他者の「人生という物語」を共感しながら理解する態度・姿勢を身に付けてもらい、福祉・介護関連の仕事に携わる意欲(使命感)を高めてもらいます。						・道徳と倫理 ・地域共生社会 ・幸福度 ・尊厳と自立 ・インフォームドコンセント ・生命倫理と医療倫理			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 10				
A 知識・理解力			人間の尊厳、人生の意味と幸福、社会の成り立ちについて広く知り、理解を深める。						
C 論理的思考力			何が善であり、倫理的に正しいことであるかを、論理的に(根拠に基づいて)考察する。						
D 問題解決力			医療・福祉・介護の現場における倫理的な葛藤を分析し、問題解決の方策を検討する。						
F チームワーク・リーダーシップ			事例検討を通じて多職種連携の重要性を理解し、連携に必要な協調性を涵養する。						
G 倫理観			医療倫理の考え方を理解し、利用者と家族の人権を守るための倫理的配慮ができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 <u>ディスカッション</u> デイバート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間で課題レポートによる評価を実施する。グループによる演習、発表をし、最終課題レポートにより成績評価とする。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: コメントにより各自に返却する									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①[導入1]人としての倫理、倫理観について理解する				【予習】講義概要を熟読しておく。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】20分 【復習】40分			
②[導入2]人間の尊厳と人権の尊重について理解する				【予習】予習用資料を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
③[導入3]倫理原則と倫理綱領について理解する				【予習】予習用資料を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
④命に関する倫理、倫理観を理解する				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】70分 【復習】20分			
⑤医療・福祉における生命倫理について理解する				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑥高齢者医療・福祉現場における倫理的問題について理解する(グループワーク)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑦高齢者医療・福祉現場における倫理的問題について理解する(発表) 中間評価				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑧死に関する生命倫理、尊厳死と安楽死について理解する(1)				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】70分 【復習】20分			
⑨死に関する生命倫理、尊厳死と安楽死について理解する(2)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑩高齢者医療における倫理的課題(その1)事例による分析				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】70分 【復習】20分			
⑪高齢者医療における倫理的課題(その2)事例による分析				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑫児童虐待と生命倫理について理解する				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】70分 【復習】20分			
⑬高齢者福祉社会と今後の問題について理解する(1) (グループワーク)				【予習】テキストの指定範囲を熟読する。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】50分 【復習】40分			
⑭高齢者福祉社会と今後の問題について理解する(2) (発表)				【予習】小テストの準備、テキストの熟読。 【復習】講義資料のポイントを整理する。		【予習】70分 【復習】20分			
⑮発達障がい・LGBTと生命倫理;[まとめ]〈生と死の倫理学〉と福祉・介護				【予習】全体を復習する。		【予習】50分			
使用テキスト: 金子・金内ほか(編集)『学生と考える生命倫理[第2版]』(ナカニシヤ出版、2018、ISBN-10:4779512212)				その他参考文献など: 介護福祉士養成講座編集委員会(編集)『人間の理解(最新 介護福祉士養成講座 1)』(中央法規出版、2019)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 生と死をめぐる現代の諸問題を一緒に考えて、倫理的感性を少しでも高めて、倫理的行動はできる人に成長してほしいと思います。									

社会福祉学科

科目名: キャリアデザイン論				担当教員 氏名: 島田 勝彰		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	前期	総合科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: ワーク&対話を主とした授業を実施します。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
自分の実現したいキャリア(将来)について主体的に考え、卒業後の生き方、働き方、学び方について理解している。自分の人生や進路についてポジティブかつナラティブに捉え、周囲に伝える、定期的に更新することができる。						自己効力感 自己分析 将来設計 ナラティブキャリア
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 9. 10	
C 論理的思考力			自身のキャリアについて、主体的かつ論理的に考察できるようになる。			
F チームワーク・リーダーシップ			グループワーク・ディスカッションを通じて、他者との対話ができるようになる。			
G 倫理観			社会人としてどのように職業選択をすることが正しいかを理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 0 %	レポート: 40 %	発表: 36 %	実技試験: 0 %	その他: 24 %		
特記事項:その他は原則出席回数となります。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 期末プレゼンテーション、中間レポートを実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①イントロダクション(講師紹介・講義概要等)				講義	90分	
②キャリアの基本(生き方・働き方・学び方、生きがいと働きがい等)				講義・ディスカッション	90分	
③自己効力感(自己選択と成功体験)				講義・ディスカッション	90分	
④境界領域におけるキャリア形成(現代型キャリア、ブランドハプスタンス)				講義・ディスカッション	90分	
⑤キャリアデザイン演習(自己分析)				演習・グループワーク	90分	
⑥キャリアデザイン演習(将来設計)				演習・グループワーク	90分	
⑦職業選択と自己実現(社会人基礎力、ナラティブキャリア)				講義・ディスカッション	90分	
⑧プレゼンテーション				プレゼンテーション	90分	
使用テキスト:「キャリア理論と自己理解」 ※講師側で準備				その他参考文献など:		
4週目終了後に、中間課題(レポート)があります。						

社会福祉学科

科目名: 臨床美術の実践 I		担当教員 氏名: 岡野 宏宣							
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 前期	総合科目	演習	選択	臨床美術士4級				
実務経験を用いてどのよ 臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として福祉施設での臨床美術の実践経験を生かし、造形素材 うな授業を行っているか: の理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共 に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングする ことによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番 号)		2. 3. 5. 6. 7. 8				
A 知識・理解力		右脳の活性化と認知症について理解することができる。							
B 専門的技術		状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。							
D 問題解決力		「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情 報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。							
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。							
H コミュニケーション力		造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、 他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	30 %	実技試験:	30 %	その他:	10 %
特記事項:特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた 企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物:脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2Bか4B									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①	授業ガイダンス		①	出題:自己紹介	60分				
②	臨床美術基幹Ⅱ「臨床美術研究成果」		②	出題:レポート、フリー実習計画書	300分 (後期提出)				
③	臨床美術アートプログラム制作「思い出の空」		③	出題:「自然色からの色彩演習」	120分 (後期提出)				
④	臨床美術アートプログラム制作「土偶」		④	準備物:4~5cmの石1個					
⑤	臨床美術アートプログラム制作「アナログキューブ」		⑤	出題:「アートプログラムの読み込み」	60分				
⑥	臨床美術アートプログラム制作 「ブロッコリーを描く」①		⑥	出題:「五感のアナログ画のアートプ ログラムの予習・試作・準備」	180分				
⑦	臨床美術アートプログラム制作 「ブロッコリーを描く」②								
⑧	臨床美術教材研究 「素材と表現についてⅠ」		⑦						
⑨	臨床美術教材研究 「素材と表現についてⅡ」		⑧	出題:「さまざまな技法」 「さまざまな紙の描き心地」	240分 (後期提出)				
⑩	アートプログラム実践演習 「五感のアナログ画ロールプレイング」①		⑨						
⑪	アートプログラム実践演習 「五感のアナログ画ロールプレイング」②		⑩						
⑫	臨床美術学演習「フォルメン」 「ジェスチャー画」①彫刻を見て描く②人を見て描く		⑪						
⑬	臨床美術コミュニケーションⅡ 「現場セッションについて」「子どもの現場」		⑫						
⑭			⑬						
⑮			⑭						
使用テキスト:『臨床美術士養成講座4級』, Toppan芸造株式会社 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, Toppan芸造研株式 会社			その他参考文献など:						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									